

## 漫画学講座はじまる

日下, みどり  
九州大学比較社会文化研究院 : 教授

<https://hdl.handle.net/2324/16799>

---

出版情報 : 日下翠教授中国文学・漫画学著作集成. 25, pp.10-11, 2000-06. 九州大学大学教育研究センター  
バージョン :  
権利関係 :



# 漫画学講座はじまる

くさ か  
日 下 みどり

## 全国初の「漫画学」

大学院で、この四月から漫画学の講義を始めることになりました。「漫画学」と言う名前では、おそらく全国でも始めてでしょう。これまで、大学で漫画を本気で研究しようとする物好きな人がいなかったからですが、それが不思議なくらい、今や日本の漫画は世界中に広まり、愛されています。影響という点では、日本文化の中で最大と言えるかもしれません。それなのに、肝心の日本でその研究者がいないというのは淋しい限り一というわけで、何人かの先生方と、ではここで漫画学を始めようという話になったわけです。幸い、九州大学の大学院比較社会文化研究院では、学生は何人かの先生を選び、自由にテーマを選んで研究することができます。逆にいえば、何人かの先生と組んで好きなテーマ（例えば漫画）を選び、授業で取り上げることも可能なわけです。

## まず教科書を

ところが、授業といっても、教師も全員漫画では素人。何をどう教えてゆけばよいのか、見当もつきません。そこでとりあえず教科書を書いてみました（準備に二年かかりました）。それが『漫画学のススメ』（白帝社）です。内容はⅢ章に分かれ、それぞれ「第Ⅰ章：漫画で読む文化。第Ⅱ章：少女漫画入門。第Ⅲ章：中国語圏の新漫画事情」となっています。これは漫画を使ってこういうことも出来ますよ、というサンプルの意味もあって書きました。論文を書くには、漫画が好き、だけではだめです（好きでないと困りますが）。これがいい、あれが面白いといった印象批評では、単なるおしゃべりになってしまいます。論文にはきちんとした問題意識と明確なテーマが必要です。この本では、例えばこういったアプローチの仕方がある、ということを書いたかったわけです。

## 漫画とマンガとまんが

最近、本や雑誌では漫画のことを、「マンガ」とカタカナで表記するのが普通のようなようです。いったい何時

から漫画は「マンガ」になったのでしょうか。最初の授業ではまず、この説明から始めました。これが日本漫画の特徴、ひいては何故日本でこんなに漫画が発達したのかにかかわる根本的な問題でもあるからです。結論を言えば、これは「手塚治虫が創り出した、新しい文化であるストーリーマンガを、従来の古い漫画と区別するため」です。例えば石ノ森章太郎は「日本の“漫画”が“マンガ”に変わってしまったのは、手塚治虫という不世出の天才が出現したからだ。面白おかしいだけではなく、人生の悲喜劇を奥行きのあるストーリーで表現するメディアに変えたからである」（『マンガの心』光文社、カバーの言葉より）と言っています。もっとも、この「マンガ」と書く方法も、現在のところ、統一性のある表記となっているわけではありません。漫画と書く人もいるし、まんがと書く人もいます。こんな初歩的なこともまだ確立していないのが、



手塚治虫の名作『エンゼル』



日本マンガ界の現状なのです。

これについては、外国の方がきちんと区別しようとしているようです。例えば中国では、日本のストーリーマンガを、わざわざ「新漫画」或いは「卡通画」と呼び、従来の一コマ漫画や四コマ漫画と区別していますし、欧米ではそのものずばり「MANGA」と表記することも増えてきています。

では一体、「マンガ」はどこが従来の漫画と違っていたのでしょうか。これについては、第2回目の授業で説明しました。

### 漫画の文法その他

日本漫画の特徴の一つに、映画に似た、画面から飛び出すような動きとスピードのある描き方、ということが挙げられます。それを「マンガの文法」という表現で、夏目房之介たち研究者がコマわりや線、ふきだしの形などに分析し、具体的に説明しました。おかげで問題がかなりはっきりしたわけですが、こういった、基礎知識として必要な先行研究について紹介しました。いわゆる参考文献というもので、論文を書く際に踏まえておくべき手続きの一つです。何冊かの必読書を紹介しました。例え自分の興味の対象外であっても、ある程度の常識は必要だからです。

三回目の授業では、戦後のマンガの歴史についてざっと説明しました。赤本と呼ばれる粗末な漫画から始



『COM』創刊号

まり、手塚治虫の記念碑的作品『新宝島』の登場、漫画週刊誌の発売、大人漫画をめざす「劇画」運動、『ガロ』、『COM』など漫画専門誌の誕生などです。文学（特に大衆文学）との関係も押さえておく必要があるため、駆け足の説明になりましたが、全体の流れを理解してもらうために、かなり分厚い資料コピーを配りました（学生が読んでくれれば良いのですが）。

### 今後の予定

これからの授業は、作品を取り上げての討論、各々の学生に課題を与えてのレポート作成、研究発表、ゲストの先生がたの講義など、様々な計画をたてています。留学生を始め、目的も専門も異なる学生がほとんどですが、それぞれに異なるテーマを与え、授業でも発表してもらうつもりで、結果が今から楽しみです。

できれば教師以上の才能ある学生が出て、目覚しい成果を挙げてくれれば、と虫のいい期待を抱いているところです。（比較社会文化研究院）



上海の漫画雑誌『卡通王』新年号